



武進白雲先生集
卷之七

~ 13
3370
7



16

武道白石英卷之七

津山宰相公の事

附敵討の事

茶義策

[illegible]

大正十年八月九日
本大學出版部

一日千秋と流る思ひをたしそ流る
 家申帳ある所城ある二つある
 白井新曲と石巻歌井の流る
 つまや洞と石巻歌井の流る
 ると石巻歌井と石巻歌井の流る
 流るをたしそ流る
 五斗あるをたしそ流る

[illegible]

一子^{いっし}を^をみ^みそ^そる^るは^はと^とき^きに^に敵^{てき}付^つ
度^{たび}の^のち^ちに^にい^いる^るは^はと^とき^きに^に敵^{てき}付^つ
後^{のち}より^{より}なる^{なる}る^るそ^その^の用^{よう}を^をは^はと^とき^きに^に敵^{てき}付^つ
中^{ちゅう}に^にい^いる^るは^はと^とき^きに^に敵^{てき}付^つ
油^{あぶら}を^をと^とる^るは^はと^とき^きに^に敵^{てき}付^つ
乃^{すなは}ち^ちに^にい^いる^るは^はと^とき^きに^に敵^{てき}付^つ
これ^{これ}を^をい^いる^るは^はと^とき^きに^に敵^{てき}付^つ
祥^{しやう}に^にい^いる^るは^はと^とき^きに^に敵^{てき}付^つ

わ^わに^にい^いる^るは^はと^とき^きに^に敵^{てき}付^つ
人^{ひと}と^とい^いる^るは^はと^とき^きに^に敵^{てき}付^つ
と^との^の今^{いま}を^をて^て甲^{こう}に^にい^いる^るは^はと^とき^きに^に敵^{てき}付^つ
き^きに^にい^いる^るは^はと^とき^きに^に敵^{てき}付^つ
と^との^の今^{いま}を^をて^て甲^{こう}に^にい^いる^るは^はと^とき^きに^に敵^{てき}付^つ
は^はと^とい^いる^るは^はと^とき^きに^に敵^{てき}付^つ
を^をい^いる^るは^はと^とき^きに^に敵^{てき}付^つ
わ^わに^にい^いる^るは^はと^とき^きに^に敵^{てき}付^つ

[illegible][illegible]

[illegible][illegible]

さあちる
磯ヶ井の嘉くそき方うけし—
一子言々そいふ年々に父の像ハも小
天と—うごとのそ言いざ存たう時
更はせやとて—やう声と—きり
三太郎もかゝとづつ—上をきりやと衣
そとやめく—その對面又が後を
よこして—きり—きり—
まるとお—の唐くちん—
海斗とんと

[illegible]

そや漆をきくひく ねく北を
九条一やうるも長々長々うへに後を
例をうへる所して城をのちんと
をきくと漆をうへげ持て人三す刀を
持てうへるれどこの糸も長々か
持刀をねく人の男のうへうつとた
一付を跡は人ごうもつとねを
風は少々のをうへめくねくうへ

布ねをうへる一やうる改めをねく
ねくうへるねくうへるうへる
うへるうへるうへるうへる
うへるうへるうへるうへる
うへるうへるうへるうへる
うへるうへるうへるうへる
うへるうへるうへるうへる
うへるうへるうへるうへる

つぎこそは頂戴付たる事なれども
それの移るものなり物のごく
女を去つてお母を城へ自入
して後敵のこれ年を討めたる事一休
めさうよ作りせたる事こそ方知れ
誠とて休めたる事こそ方知れ
減さるる事こそ方知れ
減さるる事こそ方知れ

此の事なりとて一休様とて
それの移るものなり物のごく
女を去つてお母を城へ自入
して後敵のこれ年を討めたる事一休
めさうよ作りせたる事こそ方知れ
誠とて休めたる事こそ方知れ
減さるる事こそ方知れ
減さるる事こそ方知れ

[illegible]

昔々やと栴に栴のよなとさへ
 もとふらうはあねのやと栴のま
 けをもしとさねと栴くさうと
 栴と栴はさうとさうとさうと
 せとさうとさうとさうとさうと
 栴と栴はさうとさうとさうと
 さうとさうとさうとさうと
 さうとさうとさうとさうと
 さうとさうとさうとさうと

皇の御心入をり、并に法士を
 人に与ふこと、いふことと感
 まづりて、其の心は、
 うへへ、花房の心、
 肉を、折る、
 仁心を、
 心、
 神、

[illegible]

い
三味線より一は後山流のまふ松園仙舟
あやういども私をとり抱へんとい
仙舟は自と掛くも下さる
べとかとて一向に合点せむけり
力を止し終ひるおきとて月
いと送るなり故り種々のありき
それをおかき申すとおき

大暑も乃むる秋のそとへくち
うとくくとよるふまゝく水ハ
事成あふ〜かんきりぞ折あふも
永く側ふぬる〜初刻〜たる覚悟ふ
ひうき一〇〜とめらと送る〜是れ
ありは〜と〜と〜と〜と〜と〜と
吉野〜と〜と〜と〜と〜と〜と
彩母〜と〜と〜と〜と〜と〜と

君が臨幸有目なきくはたは一枚紙
 明る御名あつとふおまき幸あつと
 細い汗着の沙るやべーは猪ハ扱もが
 笑ふはくまふべーと人まの六七
 人そふふ金に猪を縛くくく
 ござと升連と件の臨幸あふあ
 んぞと先女とまきと今日ハ連く
 鳴るはくまふべーとふやのまきをいけーと

法皇の陽をえあへてとまきとせ
 しむるをえうくちをえうくちを
 らんたる様の氣をきこふるを法
 おろするの祥をいふるをゆめ
 ちがふ六十四甲りとする人相
 うぶと女もゆめをいふるを
 あひするま婦のれをいふるを
 る所の人のそとをいふるを

[illegible]

〆、折るもけゑお新なるを候
 て新なるををあらはしめしむ
 今もいふごとくはを修しむ
 新のひもをあらはしむ

[illegible]

海をきひやうとうふも折ちハ
 言ふそて我々をわゝるへ一哲なるを
 ひとひまゝこそはほくや割ちり
 我々をよて虚を信ひ人まほしーが
 海たるそ一月に派るとい對しんお
 は能く似たり向夜は函館までわた
 けづ海をきあ新造のちく岸人多と
 年ぐれに甲午斗とてたの候はち後

ちうの緯退りくぐにほどと情一の
迷まうくは出るまの面りされと
しを折るく退く押くくさの情と
あつ息く情くやまんまの情をひあ
るくくさの情をさくまの情をさく
うぐはてもひるまの情とさくさく
あつ情をさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさく

い

